



平成 29 年 10 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社市進ホールディングス
 代 表 者 代表取締役社長 下屋 俊裕
 (コード番号 4645 東証 JASDAQ)
 問 合 せ 先 常務取締役統括本部本部長 竹内 厚
 電 話 047 (335) 2840

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 4 月 14 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 2 月期第 2 四半期 (累計)連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 3 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 7,656	百万円 2	百万円 △20	百万円 △60	円 銭 △5.69
今回修正予想 (B)	7,553	△36	△72	304	29.42
増 減 額 (B-A)	△103	△38	△52	364	—
増 減 率 (%)	△1.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 2 月期第 2 四半期)	7,896	54	32	7	0.71

2. 平成 30 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 15,812	百万円 451	百万円 418	百万円 201	円 銭 19.17
今回修正予想 (B)	15,635	129	45	324	31.96
増 減 額 (B-A)	△177	△322	△373	123	—
増 減 率 (%)	△1.1	△71.4	△89.3	61.2	—
(ご参考) 前期連結実績 (平成 29 年 2 月期)	15,956	511	489	234	22.43

3. 修正の理由

平成 30 年 2 月期 (平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日) の第 2 四半期 (累計) におきましては、株式会社市進および株式会社個学舎の集客が当初計画には届かなかったことなどから、売上高は前回発表予想を 103 百万円下回る見込みとなりました。但し、市進学院においては、通塾しやすい授業料・講習料への転換を図り、3・4 月の中 1 進学応援キャンペーンや夏期講習でのライバル紹介割引制度を実施し、好評を博しました。これにより株式会社市進全体の夏期講習後の 9 月立ち上がり 在籍生徒数は前年同月比 105.4% と増加しております。また、株式会社個学舎の F

Cを含む在籍生徒数と株式会社茨進の9月立ち上がり在籍生徒数も、それぞれ前年同月と比較し102.7%、106.0%と増加し、次年度に直接繋がる受験学年以外の生徒を確保しておりますので、当社グループとして来期さらなる生徒数の増加が確実と見込まれるところです。営業費用につきましては、集客力強化の観点から、市進学院を中心に通塾の利便性や教室環境の改善等を考慮し、既存教室の移転やリニューアルへの投資、また広告活動への投資も当初計画を前倒しして積極的に行いました。その結果、営業利益は前回発表予想より38百万円、経常利益は52百万円下回る見込みとなりました。また、6月30日に開示いたしました「特別利益の計上に関するお知らせ」の通り、投資有価証券の売却益536百万円の計上などから親会社株主に帰属する四半期純利益は364百万円、前回発表予想を上回る見込みとなりました。

第2四半期（累計）業績予想の修正を踏まえ、通期の業績予想につきましても修正いたします。売上高につきましては、当連結会計年度に取り組んだ価格改定の影響等を考慮し177百万円下回る見込みです。経費面につきましては、新設教室の展開はもちろん、特別利益の有効活用も含めて、既存教室の移転・リニューアル等の投資を当初計画以上に（146百万円程度）行う予定から営業利益、経常利益とも前回発表予想を下回る見込みとなっております。またこの結果、移転・リニューアル等の投資は当連結会計年度で一段落し、翌連結会計年度におきましては、同様の経費は減少する見通しです。

（業績予想に関する注意事項）

上記の予想は本資料の発生日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。

以上